

0 minute

5 minute

10 minute



HIV

MRSA

Bacillus

Salmonella

Candida

Herpes

Polio

Trich

**5**分で殺菌、  
**10**分で滅菌。

HIV、B型肝炎ウイルスなど

スピーディな滅菌と、環境に配慮した消毒システム



劇薬 過酢酸製剤

**アセサイドMA 6%消毒液**

化学的滅菌・殺菌消毒剤 (医療器具・機器・装置専用)

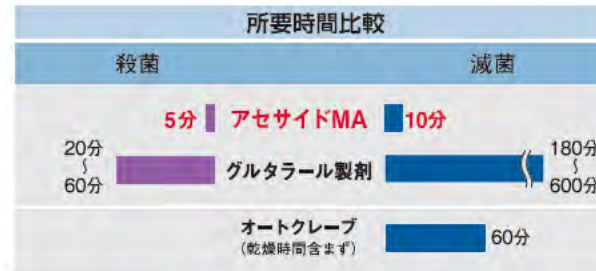
**AcecideMA** 薬価基準対象外

ジーシーが提案するスピーディな消毒滅菌システム。  
過酢酸製剤"アセサイドMA6%消毒液"は、  
短時間で効果的な消毒・滅菌が行えます。



わずか  
5分で殺菌、10分で滅菌。

常温下、短時間で効果的な消毒・滅菌が可能なので、所要時間の短縮化を実現します。臨床や休憩の合間など、少しの空き時間を利用して消毒・滅菌作業が可能になりました。



※常温下、芽胞:Bacillus subtilisをはじめ、各種供試菌を用いた殺菌効力試験による結果。

## ウイルス・細菌を消毒・滅菌。

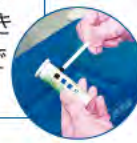
芽胞・抗酸菌・真菌・一般細菌など幅広い微生物の消毒・滅菌から、HIV、B型肝炎、C型肝炎のウイルスまでもブロック。また、血液凝固などのタンパク汚れを固着させることはありません。

| 消毒剤      | 一般細菌 | ウイルス | 抗酸菌 | 芽胞 |
|----------|------|------|-----|----|
| アセサイドMA* | ●    | ●    | ●   | ●  |
| グルタール製剤  | ●    | ●    | ▲   | ▲  |

※10分滅菌の場合 ●有効 ▲菌種によって感受性に差がある

別売の「アセサイドチェッカー」で実用濃度を即判定。

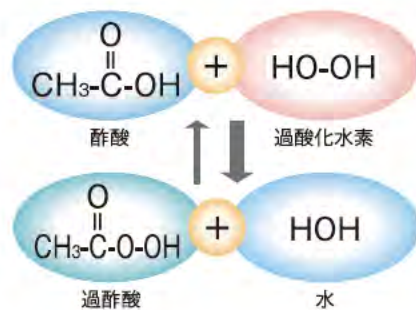
アセサイドチェッカーは約10秒で濃度判定をする試験紙。アセサイドMA実用液に漬けるだけで、使用可能な状態を確認することができます。アセサイドMA実用液は約1週間を目安に繰り返して利用できます。



## スタッフの方の健康を第一に。また、院内の環境にもやさしい。

◆アセサイドMAはナチュラル成分。

過酢酸は酢酸と過酸化水素の化合物で、水、酢酸、酸素に分解される自然成分です。



◆使用後の液は流水下に流せ、環境汚染の心配がありません。

過酢酸は有機物等との反応後、酢酸と酸素に分解。過酸化水素も容易に酸素と水に分解します。使用後の液は流水下で十分に希釈させて流すことが可能です。

- 発がん性と密接な関係にある変異原物質に指定されていません<sup>1)</sup>。
- 作業環境許容濃度は設定されていません<sup>2)3)</sup>。
- アレルギーや感作の報告はありません<sup>3)</sup>。

1) Malachuk, P.S., Disinfection, Sterilization and Preservation, 5th ed. (ed. by Block, S.S.), Philadelphia: Lippincott Williams & Wilkins, p.976-996, 2000  
2) 日本産業衛生学会において、酢酸の許容濃度は設定されています。[10ppm:8時間/日(40時間/週)]  
3) 吉田太郎, 病院サバイブ2001:5(2):68-73

## 過酢酸製剤の消毒滅菌システム

### 洗浄

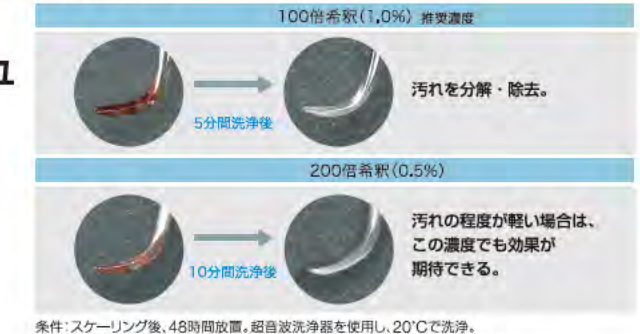


歯科用器具洗浄剤  
ジーシー  
ハイジーンウォッシュ  
酵素系洗浄剤

- 短時間で強い洗浄力-酵素配合-
- 中性 (pH7.0~8.0) ●防錆剤配合
- 抗菌剤配合

包装・希望医院価格●1本:5L

### 洗浄効果の比較



### 消毒滅菌



#### 過酢酸製剤

アセサイドMA 6%消毒液

包装・希望医院価格●1函=第一剤(主剤)液75mL1本、第二剤(緩衝化剤)液75mL1本



#### 薬液浸漬容器

アセサイド専用浸漬槽

アセサイド専用の浸漬槽です。1.5Lの単位で3Lまで実用液をつくることができます。蓋に設置できるタイマーをはじめ、水洗いや乾燥に便利なトレイ、ファイル、リーマーなどを浸漬する小物バスケットがセットされています。予備洗浄槽付。

仕様●外形寸法:161mm(H)×376mm(W)×226mm(D)  
包装・希望医院価格●1個(浸漬槽、タイマー、トレイ、小物バスケット、予備洗浄槽)



#### 過酢酸製剤 濃度判定用試験紙

アセサイドチェッカー

アセサイドMA実用液の過酢酸が実用下限濃度の0.2%以上であることを確認することができる専用試験紙です。実用濃度が目で確認できます。

包装・希望医院価格●1函(100枚入り)

### アセサイドMA実用液(1.5L)の調製方法及び使用手順

- 最初は第二剤(緩衝化剤)を  
専用槽に1.35Lの水と第二剤を入れ  
ます。
- 次に第一剤(主剤)を  
第一剤を入れて、攪拌し蓋をします。  
※第一剤の空の容器は付属のビニール  
袋に入れて捨ててください。
- アセサイドチェッカーでチェック  
使用前にアセサイドチェッカーで、実用  
濃度を確認します。
- トレイに入れて浸漬  
器具をゆっくり浸漬してください。
- 消毒(殺菌)5分、滅菌10分  
タイマー時間厳守  
アラーム後、直ちにトレイごと器具を取り出してください。腐食、変色する場合がありますので、10分を超える浸漬はお避けください。
- 十分にすすぐ  
すすぎは流水で15秒以上してください。原則として滅菌水を使用し、充分すすぎ、乾燥させます。
- 排水  
多量の流水下で希釈しながら液を排出します。

### 使用時のご注意

アセサイドMA実用液の調製から消毒滅菌作業に入る前にアセサイドMA実用液の調製から消毒滅菌作業の前に、安全対策のため、ゴーグル、ゴム手袋、マスクなどの保護具の着用をしてください。

### 使用器具について

- 適用器具 ————— ステンレス製の器具、プラスチック器具など。
- 適用できない器具 ————— ステンレス製以外の金属製品、シリコンゴムを除くゴム製品など。

# Drug Information (2012年1月作成)

| 和名                                    | アセサイドMA6%消毒液  | 洋名  | ACECID MA        | 一般名   | 低濃度過酢酸平衡混合物  | 化学名   | エタンペルオキシ酸 | 規制区分 | 劇薬  |
|---------------------------------------|---|---|------------------|-------|--|---|-----------|------|-----|
| 日本標準<br>商品分類番号                        | 877321  | 承認番号  | 22300AMX01170000 | 承認年月日 | 2011年8月23日   | 販売開始  | 2012年1月   | 薬価収載 | 対象外 |
| 組成・性状                                 | アセサイドMA6%消毒液は、第一剤(主剤)と添付の第二剤(緩衝剤)を混合して使用する組み合わせ医薬品である。(なお、精製水で希釈し0.3%w/v実用液として使用する。)  |   |                  |       |  |   |           |      |     |
|                                       | 組成  |   |                  |       |  |   | 性状        |      |     |
|                                       | 第一剤   | 過酢酸を6%含有し、過酸化水素、酢酸、その他1成分(安定化剤)、及び水を含む平衡混合物である。 |                  |       |  | 酸性の無色澄明の液で、刺激性の特異なにおいがある。   |           |      |     |
|                                       | 第二剤   | 9成分(緩衝剤、安定剤、及び金属イオン封鎖剤)を含有する。実用液のpH調整及び安定化に用いる。 |                  |       |  | アルカリ性の無色～淡黄色の澄明の液で、わずかに特異なにおいがある。   |           |      |     |
| 0.3%w/v実用液                            |   |   |                  |       |  | 無色の澄明の液で、弱い酢酸様のにおいがある。(pH約3.8)  |           |      |     |
| 効能・効果                                 | 医療器具の化学的滅菌又は殺菌・消毒   |   |                  |       |  |   |           |      |     |
| 効能・効果に<br>関連する<br>使用上の注意              | (1)作用時間と有効な微生物  |   |                  |       |  | (b)麻酔装置類、人工呼吸装置類、人工透析装置類、歯科用器具又はその補助的器具、注射筒、体温計、プラスチック器具等。  |           |      |     |
|                                       | 作用時間  | 一般細菌  | ウイルス             | 抗酸菌   | 芽胞   | *高度に汚染されている場合、生ずることがある。   |           |      |     |
| 用法・用量                                 | (2)適用できる器具*   |   |                  |       |  | (3)劣化のおそれがあるため使用を避ける材質  |           |      |     |
|                                       | (a)レンズ装着の装置類、内視鏡類、メス・カテーテルなどの外科手術用器具、産科・泌尿器科用器具。  |   |                  |       |  | 天然ゴム・生ゴム。(用法・用量に関連する使用上の注意(6)参照)  |           |      |     |
| 用法・用量に<br>関連する<br>使用上の注意              | 1. 調製法  |   |                  |       |  | 複雑な器具類は、実用液を加圧注入又は吸引することにより、実用液と十分に接触させる。   |           |      |     |
|                                       | 2. 使用方法   |   |                  |       |  | (2)5分以上浸漬する。芽胞の殺滅を要する場合は10分以上浸漬する。  |           |      |     |
| 用法・用量に<br>関連する<br>使用上の注意              | (1)あらかじめ洗浄、水洗を行った医療器具を液に完全に浸漬する。細孔のある器具類や構造の  |   |                  |       |  | (3)浸漬後、取り出した医療器具を、原則として滅菌水を用い、流水で15分以上すすぐ。使用目的により水を使用することもできる。細孔のある器具類や構造の複雑な器具類は、内孔等に薬液が残るすいので、水の加圧注入やすすぎ時間を延長するなどして十分にすすぐ。  |           |      |     |
|                                       | (2)器具に付着している液体、血液等の有機物が本剤の効力や安定性に影響を及ぼすおそれがあり、又、生物物質中の塩化物が原因で器具に錆の発生や劣化が起こり得るので、消毒前に十分に洗浄し、目に見える汚れを除去すること。内視鏡等の構造の複雑な器具の洗浄方法については、メーカーの推奨する方法や学会等のガイドライン等に従うこと。 |   |                  |       |  | (4)浸漬時間   |           |      |     |
| 使用上の注意                                | (3)器具に残存した水分による実用液の希釈が効力や安定性に影響を及ぼすおそれがあるため、洗浄後の器具の水気を十分に切ってから、実用液へ浸漬すること。  |   |                  |       |  | (5)5分間の浸漬では、器具が大量の芽胞に汚染されている場合に生ずることがあるので、芽胞の殺滅を要する場合は、10分以上浸漬すること。器具によっては変色したりするおそれがあるため、連続1時間を越えて浸漬しないこと。   |           |      |     |
|                                       | (4)過酢酸の残留は、市販のヨウ化カリウムでんぷん紙により検査できる。器具のすすぎに十分な条件をあらかじめ確認しておくこと。薬液の残留が検出される器具は、すすぎ時間の延長などにより適切なすすぎ方法を設定し、残留がないことを確認しておくこと。  |   |                  |       |  | (6)浸漬処理の繰り返しにより、天然ゴム・生ゴム製品で、ひび等の劣化を生ずることがあり、殺菌効率も低下する。ゴムを使用した器具については、天然ゴムや生ゴムが使われているかどうかを確認すること。  |           |      |     |
| 急性毒性(LD <sub>50</sub> ) <sup>3)</sup> | 1. 重要な基本的注意   |   |                  |       |  | あるので、ゴム手袋等の保護具を着け、皮膚に付着しないように注意すること。皮膚に付着したときは直ちに多量の水で洗い流すこと。実用液を使用する際も取り扱いは、ゴム手袋を着用すること。   |           |      |     |
|                                       | (1)人体に使用しないこと。  |   |                  |       |  | 2. 適用上の注意   |           |      |     |
| 非臨床試験                                 | 2. 実用液の調製には、専用の浸漬装置を用いるか、ドラフト等を使用して、蒸気の吸入を可能な限り回避すること。実用液の使用及び保管に際しては、フタ付き容器等を使用し蒸散を防ぐと共に換気を心がけること。なお、必要に応じて、ドラフト内での使用も考慮すること。                                  |   |                  |       |  | (1)誤飲を避けるため、保管及び取り扱いに十分注意すること。  |           |      |     |
|                                       | (3)眼に決して入らぬよう眼鏡等の保護具をつけるなど、十分注意して取り扱うこと。実用液の調製等第一剤を扱う場合は洗眼できる設備のある場所や洗眼用の水を準備して行うこと。誤って眼に入った場合は、直ちに多量の水で洗った後、専門医の処置を受けること。                                      |   |                  |       |  | (2)実用液を調整する場合、ビベットなどで直接口で吸引して調整しないこと。   |           |      |     |
| 局所刺激性 <sup>3)</sup> 第一剤:試験動物 ウサギ      | (4)第一剤を扱う場合(実用液の調製や漏洩処理)、蒸気は眼、呼吸器等の粘膜を刺激するので、眼鏡、マスク等の保護具をつけ、吸入又は接触しないよう注意すること。実用液を扱う場合を含めて、換気を心がけること。   |   |                  |       |  | (3)本品は酸性であるので、次亜塩素酸塩等の塩素系殺菌剤と混合すると塩素ガスを発生するので、混合しないこと。  |           |      |     |
|                                       | (5)第一剤を扱う場合は、過酢酸水溶液との接触により皮膚が白色化又は浮腫を生じることがある。  |   |                  |       |  | 3. その他の注意   |           |      |     |
| 経口                                    | 動物  |   |                  |       |  | マウスの皮膚に適用した非臨床試験において、過酢酸は弱い完全発がん物質であるとの報告がある。   |           |      |     |
|                                       | 経口  |   |                  |       |  | 過酢酸エアロゾルを吸入させた非臨床試験において、マウスに肺腫瘍を形成させたとの報告がある <sup>3)</sup> 。  |           |      |     |
| 経路                                    | オス  |   |                  |       |  | 皮膚に一次刺激性  |           |      |     |
|                                       | メス  |   |                  |       |  | 健常及び損傷部位に閉鎖貼付、単回(0.5mL/site)  |           |      |     |
| 経口                                    | >2600   |   |                  |       |  | 眼粘膜刺激性  |           |      |     |
|                                       | >2600   |   |                  |       |  | 単回(0.1mL/眼)   |           |      |     |
| 局所刺激性 <sup>3)</sup> 実用液:試験動物 ウサギ      | 皮膚一次刺激性   |   |                  |       |  | 健常及び損傷部位に閉鎖貼付、単回(0.5mL/site)  |           |      |     |
|                                       | 眼粘膜刺激性  |   |                  |       |  | 単回(0.1mL/眼)   |           |      |     |
| 急性毒性(LD <sub>50</sub> ) <sup>3)</sup> | 動物  |   |                  |       |  | 皮膚に一次刺激性  |           |      |     |
|                                       | 経口  |   |                  |       |  | 眼粘膜刺激性  |           |      |     |
| 経口                                    | オス  |   |                  |       |  | 健常及び損傷部位に閉鎖貼付、単回(0.5mL/site)  |           |      |     |
|                                       | メス  |   |                  |       |  | 単回(0.1mL/眼)   |           |      |     |
| 経口                                    | >2600   |   |                  |       |  | 弱刺激性  |           |      |     |
|                                       | >2600   |   |                  |       |  | 中等度の刺激物   |           |      |     |
| 経口                                    | >2600   |   |                  |       |  | 極度の刺激物、非可逆的な刺激性   |           |      |     |
|                                       | >2600   |   |                  |       |  | 第一剤に比較して弱いが、刺激性がある。   |           |      |     |
| 有効成分の<br>理化学的知見                       | 1. 化学構造式: CH <sub>3</sub> COOOH   |   |                  |       |  | 2. 化学名: エタンペルオキシ酸(ethaneperoxic acid)   |           |      |     |
|                                       | 3. 分子式: C <sub>2</sub> H <sub>4</sub> O <sub>3</sub>  |   |                  |       |  | 4. 分子量: 76.05   |           |      |     |
| ＜注 意＞                                 | (1)浸漬には、フタ付き容器を用い、使用中はフタをすること。  |   |                  |       |  | 及びアデノウイルス5型を2.5分以内に不活化した。0.18%液でポリオウイルス3型を検出限界以下(<5.6×10 <sup>2</sup> TCID <sub>50</sub> /25μL)まで不活化するのに10分を要したが、0.24%以上の濃度液では5分以内に検出限界以下まで不活化した。   |           |      |     |
|                                       | (2)実用液は、容器にフタをし、直射日光を避け、常温で保管すること。  |   |                  |       |  | 5. 各種医療器具に対する実用効果 <sup>5)</sup>   |           |      |     |
| ＜実用液の再使用＞                             | 実用液は、成分、分量、特性の関係で過飽和溶液の状態になっているので、結晶が析出することがある。析出した結晶は温水浴で加熱して溶解してから使用すること。   |   |                  |       |  | アセサイド実用液(0.3%)は、 <i>Bacillus subtilis</i> 芽胞、ウマ血清及びNaClを含む菌液で汚染した各種医療器具を、作用時間5分ほどほとんどの試験(147/161)で殺滅した。ウマ血清及びNaClを含む <i>B. subtilis</i> 芽胞菌液で汚染した軟性内視鏡を実用液に5分間浸漬した結果、ほとんどの試験(10/13)で検出限界以下となり、10分ではすべての試験(10/10)で検出限界以下となった。  |           |      |     |
|                                       | (4)第二剤は、氷点下で結晶が析出したり、凝固することがあるため、0℃以上で保管すること。   |   |                  |       |  | 6. 作用機序 <sup>7)</sup>   |           |      |     |
| ＜応急処置＞                                | 皮膚に付着した場合: 直ちに汚染された衣服等を脱ぎ、流水で十分に洗い流す。痛みが続く場合は医師の診断を受ける。   |   |                  |       |  | 過酢酸の作用機序は、ヒドロキシルラジカルの生成による細胞の蛋白質変性と、それに基づく輸送の阻害、代謝の必須酵素の不活化、細胞膜とその透過性の破壊、核酸の変性・破壊などが示されている。   |           |      |     |
|                                       | 眼に入った場合: 直ちに流水で15分以上洗眼し、眼科医の診断を受ける。洗浄が遅れたら十分な場合目の障害を生じるおそれがある。  |   |                  |       |  | ＜廃棄方法＞  |           |      |     |
| ＜応急処置＞                                | 眼に入った場合: 直ちに流水で15分以上洗眼し、眼科医の診断を受ける。洗浄が遅れたら十分な場合目の障害を生じるおそれがある。  |   |                  |       |  | 実用液を廃棄する場合、多量の廃水とともに公共排水設備に流入する施設では、そのまま排水する。そうでない場合は、中和等の処理してから排水すること。原液(主剤、第一剤)を廃棄する場合、多量の濃廃液が直接廃水処理施設に流入すると活性汚泥に影響し、トラップの原因になることがあるので、実用液を調整してから処理すること。原液をこぼした場合は、こぼした原液はペーパータオル等で吸い取って廃棄すること。容器に残った原液は以下のいずれかの処理をすること。処理の際、換気に注意し、手袋やマスク、眼鏡等の保護具を着用し、液との直接の接触を避けること。実用液、原液いずれの場合も地方自治体の排水基準に従うこと。詳細については、アセサイド廃液処理の手引きを参照のこと。 |           |      |     |
|                                       | (6)保管時や輸送時は容器を横倒しにしないこと(ガス抜きキャップから液漏れするおそれがある)。   |   |                  |       |  | (1)大量の水で十分希釈する。   |           |      |     |
| ＜応急処置＞                                | 皮膚に付着した場合: 直ちに汚染された衣服等を脱ぎ、流水で十分に洗い流す。痛みが続く場合は医師の診断を受ける。   |   |                  |       |  | (2)アルカリと混合して、酢酸及び過酢酸を中和、分解する。   |           |      |     |
|                                       | 眼に入った場合: 直ちに流水で15分以上洗眼し、眼科医の診断を受ける。洗浄が遅れたら十分な場合目の障害を生じるおそれがある。  |   |                  |       |  | (3)チオ硫酸ナトリウム等の還元剤を添加して過酸化水素及び過酢酸を分解する。  |           |      |     |
| ＜応急処置＞                                | 皮膚に付着した場合: 直ちに汚染された衣服等を脱ぎ、流水で十分に洗い流す。痛みが続く場合は医師の診断を受ける。   |   |                  |       |  | ＜安定性試験＞ <sup>8)</sup>   |           |      |     |
|                                       | 眼に入った場合: 直ちに流水で15分以上洗眼し、眼科医の診断を受ける。洗浄が遅れたら十分な場合目の障害を生じるおそれがある。  |   |                  |       |  | 長期安定性試験(25℃、相対湿度60%、13ヶ月間)の結果、外観及び含量等は規格の範囲内であり、本製剤は製造日より1年間(有効期限)安定であることが確認された。  |           |      |     |
| 包装                                    | 包装形態: 第一剤と第二剤を1組にした紙箱入り。 包装単位(第一剤、第二剤とも同容量): 75mL   |   |                  |       |  |   |           |      |     |
| 主要文献                                  | 1) Bock, F. G., et al., JNCI, 55, 1359-1361, 1975.  |   |                  |       | 5) アセサイドの各種医療器具に対する実用試験, サラヤ株式会社バイオケミカル研究所資料.  |   |           |      |     |
| 文献請求先                                 | 2) Heinze, W. and Nattermann, H., Wiss. Z. Huboldt - Univ. Berlin, Math-Naturwiss Reihe, 33(5), 513-517, 1984.  |   |                  |       | 6) アセサイドの内視鏡に対する実用試験, サラヤ株式会社バイオケミカル研究所資料.   |   |           |      |     |
|                                       | 3) アセサイドの毒性試験, サラヤ株式会社バイオケミカル研究所資料.   |   |                  |       | 7) Malchesky, P. S., Disinfection, Sterilization, and Preservation, 5th ed. (ed. by Block, S. S.), Philadelphia: Lippincott Williams & Wilkins, p.979-996, 2000. |   |           |      |     |
|                                       | 4) アセサイドの殺菌効力試験, サラヤ株式会社バイオケミカル研究所資料.   |   |                  |       | 8) 長期安定性試験, サラヤ株式会社バイオケミカル研究所資料  |   |           |      |     |

※掲載のデータは、2012年3月現在のものです(価格には消費税は含まれておりません)。掲載の会社名、製品名等は各社の登録商標です。

発売元 **株式会社ジーシー** / 製造販売元 **サラヤ株式会社**  
 東京都文京区本郷3-2-14 大阪市東住吉区湊里2-2-8

DIC(デンタルインフォメーションセンター) 支店  
 ●東京(03)3813-5751 ●大阪(06)4790-7333  
 お客様窓口 ☎0120-416480 営業所  
 受付時間9:00am~5:00pm.(土曜日、日曜日、祭日を除く)  
 http://www.gcdental.co.jp ●北海道(011)729-2130 ●名古屋(052)757-5722  
 ●東北(022)207-3370 ●九州(092)441-1286